

「もしも」の広場

VOL.11

- 「葬儀費用について考える3」
- 「斎場見学ってどんなもの？」
- 「逆さことをご存知ですか？」
- 「葬儀社選びは「信頼感と安心感」で」



「葬儀費用について考える3」

〈役所関係(公的)〉

役所関係の費用として最初に必要になるのが「火葬場使用料(自治体・地域組合)によって名称が異なる場合があります」です。二十歳以上で亡くなった人がその自治体(地域組合)内に住民票を持っている場合は一万円程度、別の地域に住民票がある場合はそれ

よりも高くなります。病院(検視した医師)が作成する「死亡診断書(死体検案書)」の左半分が「死亡届」になっていて、必要事項を記入後、この届けと同時に火葬場使用料を納めます。「死亡届」の原本は役所が回収しますので、提出前に必ずコピーを

とっておきましょう。(葬儀社が代行する場合は、葬儀社でコピーをとっています)

葬儀終了後、いろいろな手続きに前記の「死亡届」だけでなく、住民票や印鑑証明、場合によっては所得額証明や納税証明などが必要になることがあります。これらはお住まいの自治体の役所で取得することができますが、必ず手数料がかかります。また、手続きに戸籍謄本(全部事項証明)が必要になることも多々あります。戸籍謄本は本籍地のある役所でしか発行ができません。各種証明書を「郵送による発行」という方法で依頼することもできますが、その際は依頼書(自治体独自の様式)に身分証明などの添付が求められます。同時にその送料を負担することと、お手元に届くまでにある程度の日数がかかることも覚えておきましょう。

不動産の名義変更に関しては、その不動産物件の登記されている法務局で手続きをします。名義を変更した場合登録免許税が必要になります。それが不動産の評価額に

よって変わります。手数料は住民票などが二百から三百円程度、戸籍謄本で七、百から八百円程度です。ただし、それらの証明書の提出先によっては、原本を返却しない場合がありますので、それぞれの必要な枚数をきちんと確認してから窓口に向くようにしましょう。

【公的証明書の発行】

居住地区の自治体役場	火葬場使用許可証(埋葬許可証) 住民票 印鑑登録証
	所得額証明 納税証明
本籍地の自治体役場	戸籍謄本(全部事項証明) 戸籍抄本
不動産の登記(登録免許税)	法務局(出張所を含む)

『齋場見学ってどんなもの？(想 苅田フューネラルホールの場合)』



皆さんは「齋場見学会」と書かれた広告や、のぼり、看板をご覧になられたことはありますか？また、実際に見学会を行っている齋場にご来場されたことはありますか？

私どもの齋場でも、年に二回、見学会を行っています。「見学会」

といってもそれぞれの葬儀社さんによって内容は異なるかと思いますが、私どもの齋場ではこんな内容で行っています。

まず、商品の展示ですが、お骨壺やお棺、お礼の品物(会葬礼品)、お料理、遺影写真用の額、霊柩車等、お葬儀に必要な物の価格を表示して展示します。

各コーナーで商品の説明をさせていただきます。また、お料理は試食もできるようにしています。その他に、祭壇の展示では、ただ展示するだけではなく、実際に目の前で活けて行くという実演も行っております。また、日頃なかなか目にするのではない「湯灌」の実演も行っています。

すが、毎年ご覧くださったお客様より「初めて見たけど、すごく良かった」というお声をたくさんいただいています。

私たちはもしもの際、どんな内容のお葬儀にされるかを、ご遺族の方とお打ち合わせさせていただきます。

一つ一つの商品の実物を見ながら決めていくことができないので、ご遺族様には、カタログの中から商品を選び、決めていただきます。実際の商品を見学会で見ておくことで、カタログでは分からない商品の雰囲気や、価格や素材を比較しながら決めるなどといったことが可能になります。見学会では、事前相談コーナーを設置しているの、全体の流れや金額を、商品を見ながらご説明させていただきます。詳しく決めておくということも可能です。

会場では、少しでも役立つ情報をご来場くださった方にお届けしたいという思いから、商品の展示だけでなく、「相続」や「遺言」、「成年後見」をテーマにした「いざ

という時に役立つ法律セミナー」や、「お葬儀の費用」に関するセミナーも開催しています。こういったセミナーには私たちの予想を上回る人数の方が参加してくださることもあります。

またその他に、ご来場くださった方に楽しんでいただく催しも行っています。例えば、見学しながらちょっと一息ついていただくように、喫茶コーナーをご用意し、コーヒーマシーンやお抹茶、スイーツをお召し上がりいただけるようにしています。新鮮な野菜や果物の販売、天然酵母のパンの販売も行っています。ご来場の記念品として、実際にご会葬のお礼の品物に使用されている礼品などを粗品としてお持ち帰りいただき、商品の試食をしていただくということもあります。



そして新たに三年ほど前から始めた取り組みとして、「いのち

のつながりの大切さ」をテーマとした講演会を行っています。私たちは、お葬儀のお手伝いをさせていただく中で、忘れてはならない大切なことに気づかされることがあります。それは、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、その先に、曾おじいちゃんや曾おばあちゃんがいって、命は逝っていくと、宇宙の始まりまで続いているということ。そして、その誰か一人でも欠けてしまうと、自分は今ここにいないのだという奇跡です。当たり前のことだと思ってしまうかもしれませんが、こういことを日頃意識せずに、過ごしてしまいがちです。講演会にはこれまで、「いのちのまつり」という絵本の作家さんや、助産師さん、尼さんを講師としてお招きして、このような「いのちのつながり」についてのお話しをしていただきました。会場には百五十名以上の方が講演を聴きにきてくださることもあり、貴重なお話しに涙する方も多くいらっしゃいます。

お帰りの際にいただくアンケートでは、「初めて見学会に参加しましたが、とても参考になりました」というお声や、「このような講演会を続けて欲しいです」「素晴らしいお話しに涙が止まりませんでした」というお声など、たくさんのお嬉しいお声をいただいています。

私たちはお葬儀の現場で、人と人との絆や心の美しい部分、反対に目を伏せたくなる現実等、様々な物を目にし、そこから学ばせていただいています。そんな中でも「いのちのつながり」の大切さに気づき、もう一度、家族の絆や命の尊さ、人と人との繋がりを見つめ直していくことは、現代社会の多くの問題の解決の糸口になるのではと考えるようになりました。

それぞれの葬儀社でそれぞれの見学会や催し、活動をしていると思います。ぜひ一度、地域の葬儀社がどんなことをしているか目を向けてみていただければと思います。



〈コラム〉『逆さことをご存知ですか?』



人が亡くなった時の作法ごとは、日常生活と違う風習で行われる事がたくさんあります。逆さことといわれています。例えば、お風呂の熱さを調整する時、お湯に水を加えて丁度いい加減にします。湯灌をするときは鹽に水を張り、上からお湯を入れて温度調節をします。これが逆さ水です。体を拭くときも下から拭いていきます。枕もとの屏風を逆さに立てた「逆さ屏風」。着物の襟を左前にしたり、旅支度の足袋の紐をたて結びにしたり…。先人たちは、なぜこんなことをしたのでしょうか?それは、あの世は現実の世界と、あべこべ(はんたい)になっていると考えていたからです。何かの映画で観た記憶があったのですが、夜葬儀を執り行っていました。夜おこなっていたのは、昼と夜が逆なので、明るいあの世に渡りやすいように、このことだったようです。

大切な人を「くす」ということは、私たちにとつても先人たちにとつても非常事態であり、受け入れがたいことです。大切な人の死と向かい合い、受け入れていくために人びとは、現実の生活と反対のことをする事によって、否が応でもその現実と向き合っていたのです。わたしは、先人たちの生活の知恵がそこにあるばかりでなく、優しさや家族の絆を感じます。

逆さことは、現在ではあまり行われなくなったものもありますし、ご宗旨によっては必要ないと言われている事もあります。わたしは、逆さことを先人たちがみたいに全てやりましよう、言うつもりはありません。ただ、何事もスピードが要求される社会にあつて、病院にお迎えに行つた時、すぐに「今日、通夜はできません」と家族から聞かれるたびに、もつと時間を掛けてゆっくりお別れすれば良いのにと、思う事もあります。大切な人の最後の一時を悔いが無いものにするためにも、先人たちが生み出した知恵から大切な事を学ぶ必要があるのではと思います。



北九州葬祭業協同組合 組合員向けセミナーを開催

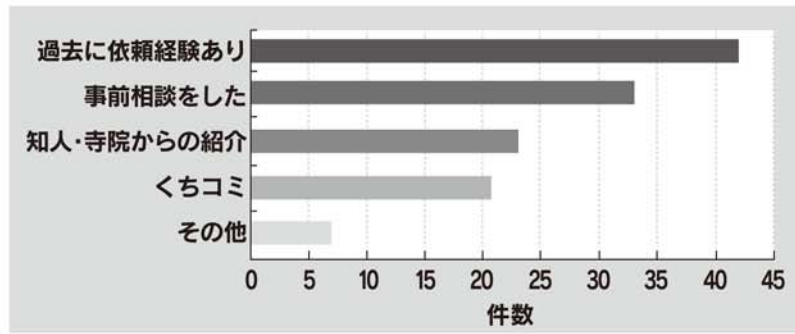
平成24年5月1日(有)中村組葬儀社城野斎場にて、「事前相談の組織的対応」と題してセミナーを開催しました。

組合員各社の社員の実務体験の中から、個人々の取組を組織として拡大していくためには、何か必要なのかについての勉強会となりました。

北九州葬祭業協同組合では、平成22年度より毎年このようなセミナーを開催し、組合員向けの教育やサービス品質の向上に取り組んでおります。



葬儀社選びは「信頼感と安心感」で



このグラフは北九州葬祭業協同組合加入の葬儀社が、その会社で葬儀を執り行ったお客様へのアンケートと聞き取り調査によって得た「依頼(選択)理由」をまとめたものです。(重複回答あり)

さらに、それぞれの回答を掘り下げてお尋ねしたところ、

○過去に依頼経験ありでは「そのときの葬儀で大変満足できたから」

「そのときに心のこもった対応をしていたから」

○事前相談をしたでは「事前に話をすることで葬儀社の対応が良くわかり、信頼感が持てたから」

「他社よりも詳しく、わかりやすい説明で納得できたから」

○知人・寺院からの紹介では「お寺から『あの葬儀社は親切だから相談に行ってみよう』と言われたから」

○くちコミでは「友人や近所の方から『あそこは良心的で親切だ』と聞いていたから」

○その他では「他社と比較してみて」といった内容が多く出されました。

この調査からお客様が葬儀社を選択する際のキーワードは「信頼・安心」だということがわかります。過去に葬儀をした会社を再度利用している方が多いのは、そのときの記憶で「いい葬儀社だったから安心だ」と判断されたからでしょう。葬儀とは非日常のものであるため少なからず不安に感じるはずですが、また、不安の中心はそれぞれのご家庭で異なるでしょう。費用のこと・寺院のこと・相続のこと……。しかし、いずれにしても信頼できる葬儀社を見出せば、それらはスッキリと解消するのです。

ではどうやって信頼・安心できる葬儀社を探すのか？この調査にもあるように「紹介やくちコミ」といった方法もあるでしょうが、一番確実なのは実際に自分で調べてみることです。どんな会社なのか、費用はどのくらいかかるのか、何をしてくれる葬儀社なのかなど。調査の方法は簡単。

「事前相談」をしてみれば良いのです。事前相談をすることでその葬儀社の信頼度・安心感をあなた自身で評価できます。

相談は費用面だけではありません。その会社はどんな助言をしてくれるのか。文字通り相談なのですから、皆さんの疑問・不安に的確に回答し、さらに万が一のときまでに検討・準備しておくべき諸課題などを整理して提言できる葬儀社。ここで葬儀をしても役立つ情報をきちんと提起できる葬儀社なら絶対に安心です。その逆に、事前相談とは名ばかりの勧誘活動に終始するだけの葬儀社は、葬儀の意義や意味を説明できないのかもしれないですね。

葬儀だけは絶対にやり直しがききません。そのときになって、「名前を聞いたことがある」といった程度の理由で葬儀社を選んでしまい、後悔することのないようにしていただきたいと願っております。

「事前相談」をしてみれば良いのです。事前相談をすることでその葬儀社の信頼度・安心感をあなた自身で評価できます。



北九州葬祭業協同組合

事務局 株式会社イフケア北九州内
北九州市小倉南区葛原5丁目4番20号



0120-207-995

■組合加盟社

・(株)阿部光林社	tel.093-641-3333	・(有)積善社	tel.093-321-4418
・(有)公益社	tel.093-245-0204	・(有)曾根葬儀社	tel.093-471-6376
・(株)光善社	tel.093-761-2559	・(有)中村組葬儀社	tel.093-941-1411
・(有)小倉丸喜	tel.093-931-4626	・(有)博善社	tel.093-921-1291
・(株)小宮	tel.093-661-4444	・(有)行橋造花店	tel.0930-22-1507

編集責任者：戸高 正郁 編集者：角田 周一・原田貴之・有門 奈美・松田 伸二 編集事務局：神田 紀久男

気になっていることがありましたらご連絡下さい。ご意見などがありましたらお電話で受け付けております。

発行